



館長だより

山形県産業科学館

令和 7 年 7 月 13 日(日)

発行 館長 加藤 智 一

マメコガネ



日本在来種ですが、海外では侵略的外来種となっている「マメコガネ」が、ドイツとス

イスとの国境に近いフランス東部の都市で 2 匹見つかって話題になっています。

「マメコガネ」は、コウチュウ目（鞘翅目）・コガネムシ科に分類される甲虫の一種で、植物食の小型のコガネムシです。初めに移入が確認された北アメリカでは、ジャパニーズ・ビートルと呼ばれ、農業上の重要害虫の 1 つとされています。どうやらアメリカで甲虫類の検疫が始まった 1912 年以前に、日本から輸出されたアヤメの球根に幼虫が紛れ込んでいたものと思われ、天敵の少ない北アメリカで一気に分布を広げました。

日本では、北海道から九州、対馬、屋久島などに分布し、成虫は夏から秋にかけて発生、マメ科植物、ブドウ類、ヤナギ類など、さまざまな植物の花や葉を食べます。ダイズやブドウといった農作物の葉も食い荒らします。コガネムシには夜行性のものが多いのですが、「マメコガネ」は昼間によく見られ、1 枚の葉に複数の個体が固まって葉を食べていることが多く、人が近づいたり植物が揺れたりすると、後脚を斜めに挙げる動作をとります。動きは鈍く、わりと簡単に捕えることができますが、体がすべすべしていて指からすり抜けることもあります。また、幼虫は他のコガネムシ類同様に地中生活をし、植物の根を食べます。農作物や芝などの根を食べて枯らすこともあります。卵から成虫までの生活史は通常 1 年ですが、寒冷地では 2 年かかることもあります。

EU では、「マメコガネ」が拡散すれば、農業への被害額は日本円にして年間およそ 1 兆 3000 億円に上ると試算しており、警戒を強めています。

山形の結構スゴイ企業ご紹介

Gata! 2025.8 月号 #250 より

(1) けん玉

競技用けん玉の約 70% は山形で作られているって知ってました？

けん玉の由来は、太陽と月に見立てた日本生まれの木工品!!



日本生まれのけん玉が今のスタイルになったのは、大正時代だそうです。当初は「日月ボール」の名で親しまれていたと言います。赤い玉を太陽、軸の根元の小受は三日月形に浅く彫ってあるのが由来だとか。けん玉の競技人口は国内 300 万人。海外 100 万人と言われている。日本けん玉協会

が主催する小学生の全国大会では、90 % 以上が、山形工房（梅津雄治社長、長井市）のけん玉を使用しています。「KENDAMA」の人気上昇と共に、海外のプロプレイヤーからの支持を受け、今では世界 50 ヶ国に輸出されています。

(2) レコード針



世界シェア 9 割の精密技術。創業 85 年の老舗！レコード針と言えば「ナガオカ」（長岡香江社長、東根市）前身となる長岡時計用品部品製作所は 1940 年（昭和 15 年）に山形県出身の長岡榮太郎氏が東京豊島区に創業しました。その後、日本で初めて「ダイヤモンド針」の実用化に成功し販売を開始しました。1969 年（昭和 44 年）に山形ナガオカを設立し、社名や体制は変わりましたが、現在に至っています。従業員は約 100 名で、7 割は女性。CD の登場で市場は縮小しましたが、近年は、カートリッジ開発や海外展開に力を入れ、世界 46 ヶ国に代理店を持っています。